

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス はるるん		
○保護者評価実施期間	令和7年2月27日		～ 令和7年3月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	37世帯	(回答者数) 34世帯
○従業者評価実施期間	令和7年2月27日		～ 令和7年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【適切な支援の提供】 児童発達支援管理責任者を主として、必ず全職員でモニタリング、個別支援計画の支援目標及び内容を検討している。その際、全職員から子どもの状況を聞いて、評価、見直しを行っており、密なチームアプローチで支援を提供する事が出来ている。	全職員が自分の考えや意見を言えるような雰囲気作りをして、様々なプログラムが提供できる組織作りにも努めている。また、余暇支援に力をいれる事で、様々な経験や体験ができるプログラムを提供して、児童の成長と出来る事が増えるように努めている。支援達成のために集団、小集団での個々の支援目標にそって、療育の時間を設けている。	レクリエーションの内容が固定化してるので、新しいレクリエーション等、子ども達が楽しめるものを発案していく。児童の状況に応じて、専門的支援実施加算を実施する。
2	【保護者への説明等】 計画を作成する段階で保護者と支援内容も相談している。必ず子ども自身(意思表示や会話が出来る子ども)にも意見を聞いてから作成している。つまり、児童及び保護者の意見を尊重した計画を実施できている。保護者・きょうだい児参加型のイベントを開催して、交流を図っている。	悩み等の相談に対しては、その都度、電話であったり直接に対応している。児童の理解の有無に限らず、必ず本人に支援目標や内容を説明して、名前が書ける子どもは署名をしてもらっている。	地域の他の子ども達との交流が出来るように働きかける。家族(保護者)に支援の成功事例等を日々の利用時や担当者会議で伝えてはいるが、なかなか自宅で実践とまでは至っていない現状が多いので、家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対してペアトレーニングの機会を図っていく。
3	【関係機関との連携】 計画相談、学校、他の放デイにおいて、担当者会議だけでなく必要に応じて会議を提案したり、電話で情報の共有や対応策等の連携が出来ている。また、他の放デイとの合同イベントも開催して職員間・児童同士の交流も出来ている。	他の放デイと相談して、対象児童の利用曜日を定める事で、対象児童の預け先がなくで保護者が困らないように配慮している。自立支援協議会に参加する事で、より一層、縦と横の繋がりを強化を図っている。	学校によっては児童の状況について引き継ぎを受けていなかったり、学校側の放デイに対する協力や理解に差があるので、働きかけて児童や保護者のために連携を図れるように努めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【環境・体制整備】 利用総数の9割が男児で占めているが、学生アルバイト1名しか男性職員がいない。定員に対して職員は適切に配置しているが、支援上、男性職員の補充が必要である。	現在は法人内の部署異動により、正規での男性職員の在籍がなくなった。	保護者に対して、職員体制上、同性介助が好ましい場面でも異性が介助せざるえない状況である事を伝え、理解を求める。また、正規での男性職員の補充が困難であれば、積極的に男性アルバイトを雇用していく。
2			
3			